

判断力・評価能力を育成する説明的文章の読解指導

ー 評価カテゴリーを活かした実践開発 ー

学籍番号 239301

氏 名 井上穂風

主指導教員 土山和久

副指導教員 村井隆人

1. 研究の背景

資質・能力の時代の教育を読み解く基本的なキーワードとして、思考力・判断力・表現力が言われており、特に「判断力」が重要ではないかと考える。判断力は、複雑な問題に対して適切な選択肢を評価し、意思決定を行う能力として現代社会で求められている。そして、判断をするということには評価がつきものである。判断力を育成する上で、同時に書かれている情報や表現の仕方を評価する力が判断力を読み解く上で鍵になってくるのではと考える。そこで、本研究では、現代の教育における「判断力」および「評価能力」の育成を目的とした説明的文章の読解指導の実践的考察を行うことを目的とする。理解した情報を自らの意見や判断に結びつける能力が必要とされると論じ、特に説明的文章を読む際に求められる「評価読み」に焦点を当てる。北山の理論を基に小学校国語科における説明的文章の価値基準を明らかにし、小学6年生の現状を把握した上で、評価カテゴリーを活用した授業案を提案する。本研究を通じて、判断力と評価能力を育成するための指導法の実践的示唆を得ることを目指す。

2. 確認読みと評価読みの学習指導過程

本章では、学校教育における「確認読み」と「評価読み」について論じている。従来の「確認読み」は、文章の内容をそのまま理解することに重点を置いていたが、次第に、筆者の意図や論理の妥当性を評価する「評価読み」が求められるようになる。「評価読み」とは、文章の内容や論理を吟味し、問題を見つけて解決策を考える行為であり、児童が能動的に読み、思考を深めることを目指す。森田は、「評価読み」の学習指導過程を段階的に示し、題名読みから始まり、通読、精読、まとめ読みを経て最終的に評価文を作成する流れを提案している。このような過程を通じて、児童は単に文章を理解するだけでなく、自分の意見や評価を持ち、問題解決のための思考力を養うことができるとされている。

3. 評価読みを支える評価カテゴリーの設定

本章では、文学テキストにおける評価基準を説明的文章に適用する仮説を立て、各学年における価値基準の変化を考察している。北山の研究では、文学テキストを評価するための「形式的」「内容」「関係」「作用」「社会的」な5つの価値基準が示されている。そ

れを基に仮説として、説明的文章における価値基準は、形式的な価値基準として「自分との関連性」「論理性」など、内容に関する価値基準として「説得力」「情報の解釈」などが挙げられる。また、関係を示す価値基準では「相違点」「信憑性」、作用に関連する価値基準では「生活の重要さ」「知覚形成」、社会的な価値基準では「有用性」「情報の正しさ」などが挙げられる。そして、学年ごとに評価基準の重要性は異なり、低学年では自分の経験と結びつけること、中学年では社会的背景への理解、高学年では高度な論理的思考と社会問題への関心が求められるのではないだろうか。

4. 発展課題実習Ⅰ・Ⅱの授業実践

発展課題実習Ⅰでは、第6学年を対象に『インターネットの投稿を読み比べよう』を実践し、インターネット上での投稿内容を比較しながら、1つの観点として説得力について考えた。児童は、相手に理解や同意を得るための工夫について考えたが、情報の信憑性や正確さを意識することが不十分であった点が課題として残った。

発展課題実習Ⅱでは、『「永遠のごみ」プラスチック』を実践し、プラスチックごみ問題について多面的に考える活動を行った。教材資料①と教材資料②を基に、問題解決策を探る過程で、良し悪しに対しての意見は多く出てきたが、そこから筆者の意図を捉えることに繋げることはできなかった。

5. 改善策としての授業私案

発展課題実習Ⅰ・Ⅱを通して、児童の説明的文章に対する評価基準を分析した結果、形式的な価値基準や内容に関する価値基準が多く見られた。特に、児童は自分の経験や知識と関連付けて意見を述べることでできしており、身近な問題を自分事として考える姿勢が強く表れていた。しかし、説得力や作用に関連する価値基準はあまり見られず、具体的な根拠を挙げて自分の意見を説明することには課題が残った。また、教材資料の比較において、どの部分が説得力を持つか、関係性や新しさに注目することが難しい児童も多かった。授業改善のためには、語彙力を高める活動や、文章の構成を捉える方法、価値基準に対する明確な指導が求められるのではないだろうか。

6. 研究の成果と今後の展望

本研究を通じて、判断力や評価能力を育成する重要性を実感した。特に説明的文章の評価において、児童の状況や教材によって評価基準が異なることが分かり、抽象的な表現を具体化する力が必要だと感じた。形式的な価値基準や内容に関する基準はよく出るが、社会的価値基準などは出にくいため、これらに関連付ける必要がある。児童は文章構成を理解し意見を表現する意欲は見られるが、情報の正確性や根拠を評価する力が不足している。今後は論理的根拠に基づいた評価力を育むため、評価基準を明確にし、多角的な視点から指導することが求められる。また、学年ごとの特性を考慮した評価カテゴリーを作成し、より効果的な授業実践を進めていきたい。